JASE ● ● J J 2014年 No. 43 No. 43 No. 43 H 2014年10月15日(毎月15日)発行 日本性教育協会 THE JAPANESE ASSOCIATION FOR SEX EDUCATION FOR SEX EDUCATION FOR SEX EDUCATION

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info_jase@faje.or.jp URL http://www.jase.faje.or.jp 発行人 鈴木 勲 編集人 本橋道昭 © JASE. 2014 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

.tc	最近のドイツにおける性教育をめぐる論争と 性教育の課題・・・・・・・・・・・ 1 もっと知りたい女子の性④・・・・・・・8	性教育の歴史を尋ねる⑲・・・・・・・・ 10
contents	性教育の課題・・・・・・・ 1	今月のブックガイド・・・・・・11
	もっと知りたい女子の性④・・・・・・・8	JASEインフォメーション 12

● 「関西性教育研修セミナー 2014 夏 | 報告●オトコの性と神話シリーズⅡ

射精する身体と性教育

2014年9月6日(土曜日)午後1時15分より、大阪府立大学「I-site なんば」において、オトコの性と神話シリーズII「射精する身体と性教育」をテーマに関西性教育研修セミナーが開催された。セミナーでは、5月に『男子の性教育』を上梓した村瀬幸浩氏を講師に迎え講演していただいた。講演後、講師と参加者の間でディスカッションが行われた。その要旨を掲載する。

主催:関西性教育研修セミナー実行委員会

はじめに

自分の性を肯定的に受け入れられない若い男性が 増えているといわれています。

学校でも、地域社会でも、性教育に与えられる時間と回数はごくわずかです。選ばれる話題は、デート DV やハラスメント、性暴力や望まない妊娠、HIV/AIDS や感染症など、リスクや被害を扱ったものが多く、「性の豊かさ」を聞く、語る、学ぶ機会はほとんどありません。

ここ数年来、強く自覚したことは、人間の性のプラスもマイナスも含めて、全体を語っていく、その中で、自分自身の性、問題はやっぱり「オトコの性」だと。

男のネガティブな、否定的な面が前面に出るん じゃなくて、「オトコの性」そのものを客観的に、



科学的にしっかり捉え直すというところからスタートしなければいけないと思ったわけです。

射精観の調査結果

その大きなきっかけの一つが、北海道の高校生の 月経観、射精観の調査でした。

月経をどう見るかということは、昔からいろんな

調査がありましたけれども、射精をどう見るかということについての調査は、寡聞ながら、私は知りませんでした。思春期、青年期、高校生年代の人たちがどんなふうに射精を捉えているかという調査です。

例えば「射精は汚らわしいもの」と思っている のは男性が14.3%、女性は8.6%です。「射精は恥ず かしいもの | では、男性の19.5%がそう感じている。 それから、「射精は面倒なもの」というのは、男性 7.4%、女性 11.7%です。「射精は自然なもの」とい うのは男性が78.2%、多いという見方もできます が、21.8%は、そう思わないということです。この 21.8%という数字は、「射精は恥ずかしいもの」の 19.5%とほぼ同じ割合で、2割ぐらいの男子学生が 自分の性のありようを否定的に、あるいは肯定的に 捉え切れていないということが言えるます。このこ とは、大学生のリポートなどでも気がつくことです。 「射精は誇りに思えるもの」というのも 20.3%です。 「射精は気持ちがいいもの」というのは66.7%とい う数字です。33%の男性が気持ちいいものと思って いないということです。

"人間と性"教育研究協議会が、この調査と基本的に同じ質問項目でとっているんですが、その結果も、数字の多い、少ないは同じでした。

正直かなり衝撃でした。講演会へ行ったときに、 男性の方も参加されることがありますから、終わった後、懇親会で「あなた、自分の射精のとき、どう思いましたか」とか、あるいは「マスターベーションというのをどんなふうに自分で受けとめていらっしゃいますか」という話を聞きます。多くの方が、ポジティブではないのです。

ネガティブな刷り込み

最初に射精したときは、「うみが出て気持ち悪いと思った」とか、「射精したときは、何となく気持ちがいいと思うんだけど、こんなことをやっていたらみっともねえなと思った」。それから「もうこんなことはすまいというように思ったんだけど、また4~5日すると、あるいは1週間もしないうちにムクムクしていて手がペニスに行っている」、そういうことを繰り返し、繰り返しするなかで、オトコの性は嫌らしい、下品だ、汚い、こういったものが

刷り込まれた、というふうに率直に おっしゃる男性が 少なからずいます。

なぜ男性たちが、 射精という問題を ネガティブに捉え てしまうのか。こ れはいろいろあり ます。簡単に言



うと、「白くドロっとしていて、ねばっとしていて、 うみみたいで汚らしい」というふうな印象が1つで す。2つ目は、尿道を通ってくるから汚いんじゃな いかという意識です。そして、快感、気持ちがいい ということを3割の人たちが否定しているように、 気持ちがいいということがプラスにならないで、マ イナスになってしまう。繰り返す自分ということで、 ディスカウント(値引き)されていくということが あるのです。

細かく見ていきますと臭いがあります。臭いにおいというのが、何か汚いということと重なるということもあります。

私は、なぜ白くドロっとしているのか、どんな意味があるのかということをきちんと、明らかにしたいと思い泌尿器科の本を随分読みました。ところが、書いてないのです。驚きましたねえ。一体どうなっているんだ。こんなに多くの青年たちが、あるいは私も含めて、何かベタッとして汚らしいものと思っているものは一体何なんだということを、なぜ科学は教えないのか、と思いました。

そのときに思ったのは、もし女性に対して、月経 学習がされなかったら、ということです。

なぜ女性に対して性教育、あるいは性のいろいろなことを教えたかというと、これは産む性だからです。月経の話も、授業も、学生にしてみると、すぐ産む性につながっていき、生殖の性につながっていく、女は産むものだ、そういう刷り込みにつながっていきます。必ずしもいい面ばっかりではありません、むしろ女性の性を産む性に限定するという意味では、マイナス面を持っています。そういう意味では、月経学習も要注意ですけれども、少なくとも月経というものがある。それは意味があるんだという

こを教えて、こういう手当てをするんだよ、と教えるということは必要です。それを学校もやってきたし、親もやってきたし、周りの大人たちはみんなやってきました。

学習指導要領が変わって、教科書が変わって、性の話がちょっと入ってきました。4年生の中に「精通」という項目があります。でも、基本的には精通という現象が起こりますということが書いてあるだけです。白くねばっとしていて、ドロっとしてとか、あれはどういうものかということは書いてありません。精通があって、そこから妊娠する力を認識を始めるというような記述はあります。でも、男の子が本当に悩んでいる、ドロっとしているとか、尿道を通ってくるとかということについては、何も書いてないのです。

矢沢潔さんが書いた『日本人の精子力』という学研新書の本があります。この中に、白っぽいのは果糖の結晶という表現があります。果糖というのは糖分です。精子にとっての栄養分になるものです。精子は自分の中にエネルギー源を持っていないのです。精巣でつくられた段階では、自分で動く力を持っていません。

射精の合図が出ますと精嚢から出てきた液体とま じります。精嚢の中に果糖という成分があるのです。 この果糖とまじることによって精子は活動力を持つ のです。

もう一つ、ねばっとしている。これはフィブリンという繊維質の入った液体がまじる中に精液が含められて膣の中に入っていく、と書いてありました。なぜかといいますと、膣の中は酸性環境で、精子は酸性と熱に弱いのです。子宮に入っていっても、子宮の中でもマクロファージというのがおりまして、異物を次から次へと食いつぶすわけです。数百が生き残って、守られて到達していくということになります。これまた卵子のバリアがありますから、それを突き破るのはほんのわずかしか突き破れないわけです。その精子が少しでも多く生き残れるように、つまり前立腺の中のフィブリンがそれを取り込んで、そして、酸性環境の膣内から守るわけです。

男子学生も含めて、もちろん女子学生もそうですが、全然知りませんから、「へえー、そんなことだったんだ」ということで、感動する学生がいます。そ

れから、尿道は、膀胱の中にあった尿が出てくるわけですが、健康な人の尿の中にはばい菌がありません。尿にばい菌がまじっている人は、尿道炎か膀胱炎の人で、健康な人の尿にはばい菌はまじっておりません。そこを通っていっても汚いものではないのです。

これも知らない人が多いのですが、射精の合図が 出るまでは、膀胱のすぐ下の内尿道体は筋肉が締 まっていまして、射精の合図が出るまではあかない のです。射精の合図で締まることによって、膀胱に あった尿と精液がまじらないようになっています。 この2つのことがわかるということがまず大事で、 あと3つ目、気持ちがいいというのは、なぜ気持ち がいいのかということはなかなか難しいのですが、 恐らく気持ちがいいから人間は性行為をやめないの でしょう。

この気持ちがいいという問題も、下品、嫌らしい、 悪いことという先入観とずうっと絡んできていまして、考えてみれば、子どものころから、ペニスにさわっていると、「そんなところをさわるんじゃない」 とか、「ばっちいところ」とか、「おしっこは汚い」 とか、言われ続けてきました。

マスターベーションからセルフプレジャーへ

「マスターベーション」を日本語に直訳すれば、「手淫」とか、「自涜」という字を当てます。 医学書にもそう書いてあります。マスターベーションはよくないことというのは、これまた刷り込みです。 私は、これも根本から切りかえたい。マスターベーションはいい行為である。自分の体をポジティブに理解していく上では、自慰行為というのはいい行為である。ただし、これは人が気がつくと不快に思ったりするから、自分だけの世界でする。自分だけの空間でするということはエチケットでもあり、マナーであります。汚らわしいと思う必要はないということを、私は中学校などから講演を頼まれると、中学生にはお話ししています。

もっとも、マスターベーションというのは中学校 学習指導要領に載っていませんので、事前に校長先 生に「マスターベーションの話をしていいですか」 というふうに言います。男の子の電話相談のベス ト3は、包茎とマスターベーションと、それから射精の問題、つまり性欲の問題です。この問題にきちんと答えなければ、講演会は意味ないと思いますよ、と言うんです。「話していいですか」と言って、校長先生も、講師が言うのならいいだろうということもあって、「あ、いいですよ」という人もいますし、「やってください」と積極的に言う人もいるし、「いやあ……」と言う人がいますから、そういうときには「じゃ、言いません」と言うんですけど、「後で聞きにおいで」と言ったりするんですが。

いずれにしても、この問題は、思春期だけではありません、生涯です。生涯の男の性的人生にとって、私は、マスターベーションを「セルフプレジャー」という言い方に切りかえる。「自慰」という言葉もあって、これも悪い言葉ではないと思いますが、自慰という言葉は、もちろん「自涜」や「手淫」よりはずうっといいんですが、自ら慰めるというのも、ちょっと何となく後ろめたい気がどこかでして、背中を向けてこっそりやっている、慰めるという言葉、そうではなくて、これはプレジャーなんだよ、自分の体をちゃんと楽しんでいる、自分の性欲とつき合っていこうよというポジティブな意味では、「セルフプレジャー」。

これは、実は私の発明ではありません。アメリカには、性に関するビデオいったものがありますが、そういったものを友人から取り寄せたときに、男性、女性の「セルフプレジャー」という巻があって、これは大人も含めてですけれども、自分の性器をどうさわって快感にいくかということを、全くぼかしもなく映している映像がありました。「セルフプレジャー」と書いてあったんです。「マスターベーション」よりずっといいと思って、それ以来、私は「セルフプレジャー」という言葉を使ってきました。

そして、これはぜひ性科学辞典とか、性教育辞典の中にも「セルフプレジャー」という言葉を公認していくような方向を追求したいと思っています。日本語に訳すと、「自己改革」になっちゃうんですが、自己改革という言葉も悪くありませんが、まあ、むしろ「セルフプレジャー」でいいんじゃないかというふうに私は思っています。

高齢者に話すことも、数年前から多いんです。今、 高齢者の性も大問題です。高齢者人口は増えていて、 人口の4分の1は65歳以上になっています。個人 差はあるけれども、性の問題も欠くことのできない テーマになってきています。

若い人もそうですが、今、性交体験がどんどん減っています。調査のたびに減っています。そして、60歳になっても、70歳になっても男性の場合、マスターベーション、週1回とか週2回とか、あるいはしない人もいますけれども、70歳になっても週何回とか、月何回とかというふうに、結構多いのです。つまり、男性の性、個人差は前提ですけれども、性的な欲求とか関心というのはなくならないんです。なくなる人もいると思いますが、なくならない人が多いのです。

私は、マスターベーションから「セルフプレジャー」という言葉にあえて言いかえて、問題にしなければいけないと思っています。そして、そういう声を通じて、性の主体者としての自覚から、体、性器への愛着やいとしさ、どこをどうさわったら気持ちいいかが自分でわかる、それから、自分は自分だという意味では、精神的自立への契機です。

岡田隆さんという精神医学者の本を読んでいましたら、性的な逸脱行為を起こすような若者の中には、マスターベーションを自分でできない、したことがないという人が有意に多いと書いてありました。そういう人を相手にしてカウンセリングなどをしていると、「したことがない」、「あれはしてはいけないというふうに言われた」と言う。そういうような、自分の性にしっかり立ち向かえない。だから、これは精神的な自立という点からいっても、自分の性欲を自分で管理できるということは、とても有意な意味があります。

大正時代に一時期、日本の性教育という言葉ができて、何人かの人が論文を書いて、性教育論が盛り上がることがありましたが、これを読んでみますと、ほとんど男のマスターベーション抑制論に尽きると思います。戦後になると、今度は純潔論で、女性の性欲の抑えつけになり、男は野放しになります。そのことが尾を引いていまして、「やり過ぎるとばかになる」とか、「あんまり若いうちからやると精子がなくなって子どもができなくなる」とか、こんなことばかり言って、あげくの果てに「猿は死ぬまでやる」とか、誰が言ったか知りませんが、そんなことを言って脅しつけるというのがありました。

オックスフォードなどの大学は、寄宿舎などは、 一時期、かなり長い間、寝るときに手は全部毛布の 上に出せといい、一晩中、交代で点検するという。 パジャマのポケットを手が入らないようにし、手は 全部毛布の上に出す。それが寝るときのスタイルで す。男性の性の快感というものを罪意識、罪悪感視 するというのが歴史的に長かった。それが尾を引い ています。

男子の性教育

男子の性教育は、最初の精通をいかにして肯定的に迎え入れるかというところから出発しなければならない、。小学校高学年、とくに中学1、2で、射精からマスターベーションのことについてしっかり教えなければいけないと思っています。そのことによって救われる男の子がものすごくたくさんいると私は思います。

もちろん私は女性のマスターベーション、セルフプレジャーも、同じように結構だというふうに言っていますし、男女の区別はない。自分の体、自分の性器を自分が好きなようにさわって快感を得てほっとするというのは、これは当たり前のことだということを女性にも言っています。データで見ても、だんだん女性のセルフプレジャーも率も高まってきていますけれども、男性に比べれば少ないです。回数をふやすのがいいとは思っていませんが、でも、そのことをネガティブに捉えている人が多い。

みずからの性の肯定的理解を通して自分たちの自信と安心を育てる。それから、男の子が性的に成熟する、射精があったときには、生殖能力を持ち始めるということについての自覚です。これもほとんど男の子にはそういうメッセージはあまりなくて、女の子は月経が始まると妊娠、妊娠と言いますけれども、男の子がそういう能力を持ち始めたこと、妊娠させる力を持ち始めたなどということはあまり言わない。このこともちゃんと言わなければいけない。君たちは、妊娠させる力を持っているんだということを言わなければいけないと思いますが、これも十分ではありません。

3つ目は、女子への性です。男子の女性に対する 性の理解は全くプアです。女には月経があって、排 卵期があって、黄体期にはこんなに体が変わっていく、そのときに体がむくんだり、便秘ぎみになったり、頭痛になったり、体調がかんばしくない時期があるということも含めて、そうしたら、月経を迎えると低温期に向かって体調が治るんだけれども、その結果、妊娠がしやすい体に変わっていくという、この2つのホルモンがうねりながら、女性の性だけではなくて、心理も大きく揺さぶっていく。こういったことなどは、高校生のうちからちゃんと教えなければいけません。

それと、多様な性の問題があります。性別違和感の問題も含めて、あるいはセクシュアルティの問題も含めて、さまざまな性を持つ人たちがいる。自分の中にも、単色ではなくて、さまざまな男性性を持っている。女性に近い部分も持っています。そういった人間の多様性を持った個別性の豊かさ、そこに人間の性の限りない豊かさがあるということです。

だから、性教育はいろいろなバッシングがあって、 行き詰まってきている時期を迎えていますけれども、 それは乗り越え始めていると僕は思っています。そ れでも締めつけだけは厳しくて、私ども研究団体に もいろいろなことがあって、苦労している人がいっ ぱいいますけれども、だけど、こんなものは世界の 潮流から言えば、全く時代おくれで、アジアの中で もこんな国はもうありません。世界へ出れば、まっ たく違うわけです。

だから、弾圧や何かがあるかもしれませんけれども、そんなものはずうっと続けられるはずがありません。そういうことに私たちは確信を持って取り組んでいく。そのときに、私もスウェーデンも含めて何回か行ったことがありますけれども、これから大事なのは、男子への性教育です、というのを数年前に聞きました。性教育はずうっと女性用です。女性の性です。そして、リーダーはほとんど女性です。

学者は男性がいますけれども、実際に現場でやっているのは女性が多い。だから、女性が語る女性の性は意味がありますけれども、男性に視座を移していくという部分をもっともっと重点化しないと、関係性の問題になかなか行き着かないと思います。そんなことを考えていく必要があるのではないかと思っているということを最後につけ加えて、私の話を終わりにしたいと思います。